

(始良郡福山町佳例川永磯)

位置と環境

遺跡は福山町牧ノ原の中心部から北東方向に約6km離れた、標高約380mの台地上に立地している。

調査の経緯

調査は、東九州自動車道の建設に伴って、県教育委員会が平成9年（1997）から平成10年にかけて実施した。調査対象は、13,560㎡である。

遺構と遺物

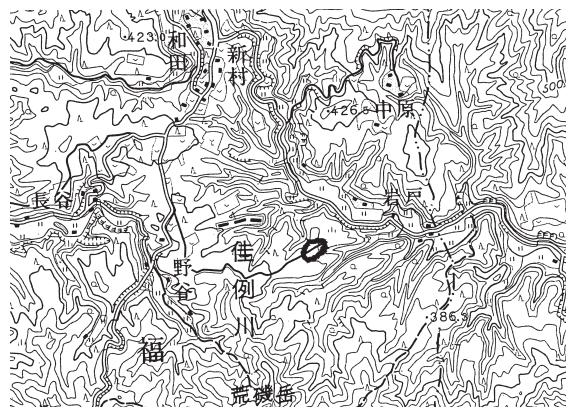
調査の結果、旧石器時代から室町時代にかけての遺構や遺物が確認されている。

旧石器時代は、礫群5基と落とし穴と考えられる土坑が3基確認されている。遺物はナイフ形石器、台形石器、三稜尖頭器、細石刃、剥片などが出土しているが、特定の部分に遺物が集中するブロックを形成するのは1か所のみである。少量のまとまりは数か所見られたが、遺跡全体で見ると散発的な出土状況である。

縄文時代草創期は、細石刃、石鏃、剥片などが出土しているが、遺物の出土量は多くない。遺構は確認されていない。

縄文時代早期は、桜島の噴出物であるP11と呼ばれる軽石層（約7,400年前）を挟んで上下から遺構・遺物が確認されている。上層からは、集石遺構数基と塞ノ神式土器や石鏃などが発見された。下層からは、集石数基と円筒形貝殻文土器や手向山式土器、石鏃などが出土している。

集石は合計16基、ほかに落とし穴状遺構が26基発見



第1図 永磯遺跡の位置

されている。

縄文時代前・中期は、落とし穴状遺構12基が確認されている。この落とし穴状遺構は、その埋土に、約4,200年前の霧島の御池を噴出源とする細かい軽石が堆積していることから、この軽石が堆積した時期にはまだ落とし穴が窪んで残っていたものと想像される。遺物はほとんどなく石鏃やスクレイパー類が数点出土しているのみである。

縄文時代後期～晩期の時期は、集石1基と落とし穴状遺構2基が確認された。遺物は土器片や石鏃などが出土した。土器片は小破片がほとんどで型式名は不明である。

古代～室町時代については、耕作などによって遺物包含層は削られている部分が多かったが、一部において遺構や遺物が確認された。遺構は畑の畝状遺構と溝状遺構、道路状遺構などが確認されている。これらは、その検出状況からお互いに関連するものと考えられるが、畑の大きさなど詳細ははっきりしない。畝の間には、文明ボラと呼ばれる1471年頃に



写真1 縄文時代前・中期頃の落とし穴断面



写真2 室町時代頃の畑の畝跡

桜島から噴出した軽石が堆積しており、これによってその大まかな時期が推測できる。

特徴

遺跡は、各時期を通じて出土する遺物は少く、縄文時代の落とし穴状遺構や室町時代の畑跡等の遺構からみると、生活の場というよりも狩猟・生産に関する遺跡といえる。

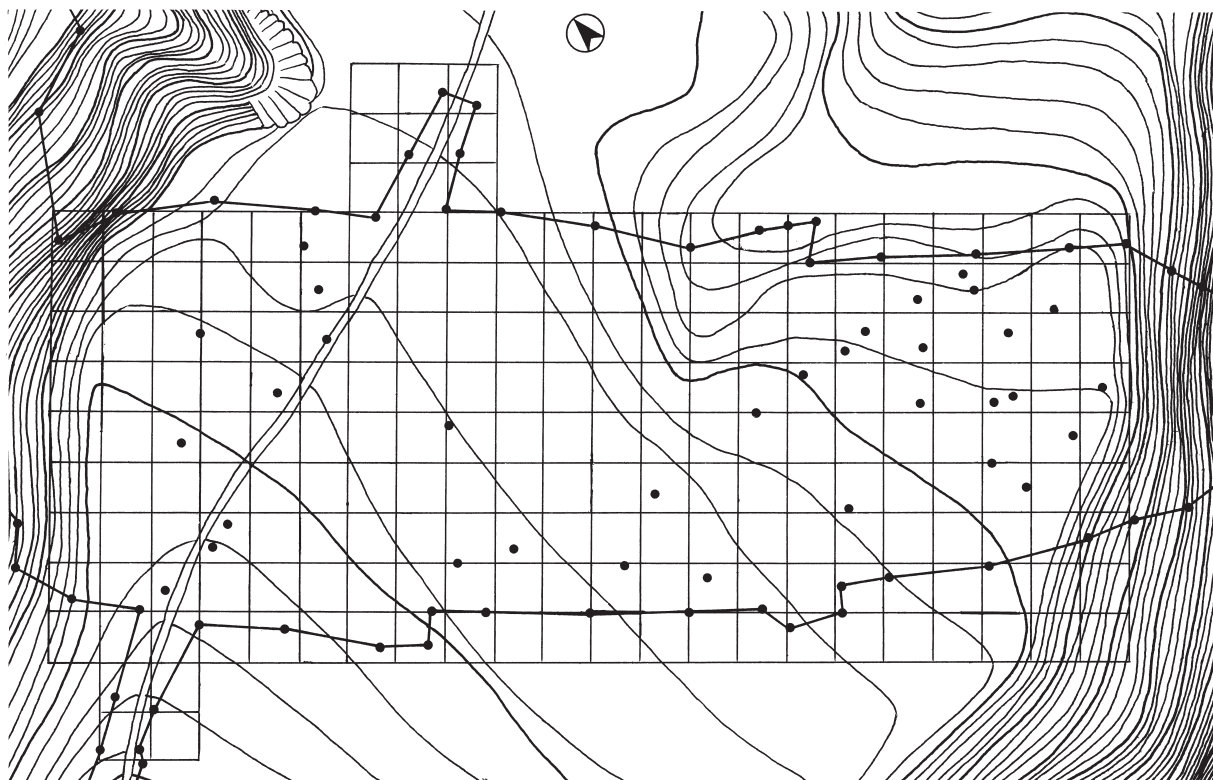
資料の所在

出土遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

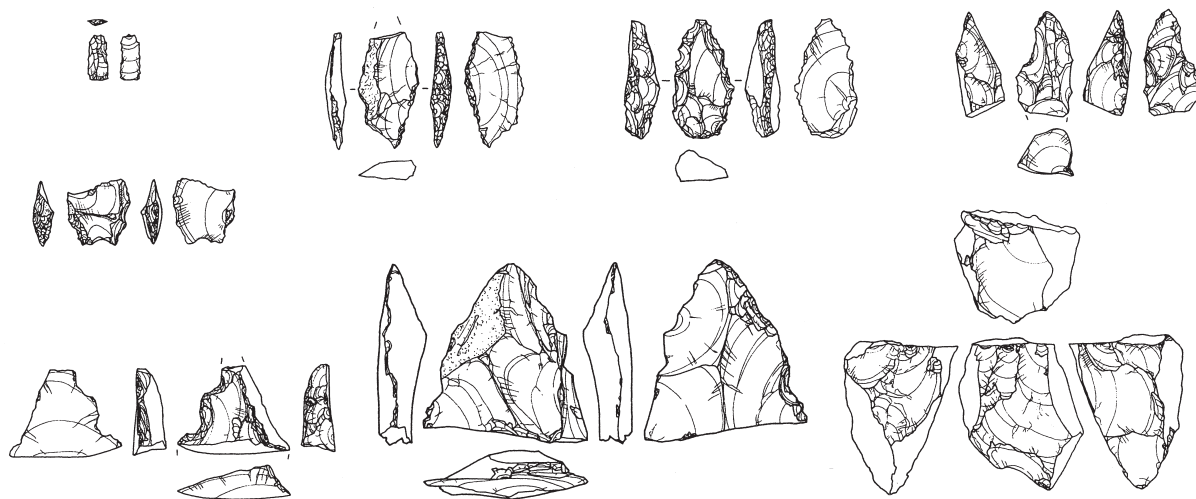
参考文献

鹿児島県立埋蔵文化財センター2003「高篠坂遺跡・永磯遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』61

(井ノ上秀文)



第2図 縄文時代前・中期頃の落とし穴配置



第3図 旧石器時代の遺物